

ストック時代における建築構造のあり方に関する研究 ー地球環境に配慮した構造設計のあり方についてー

福岡大学工学部建築学科
稲田達夫

大気中の CO2 濃度の上昇に伴う地球温暖化問題は、海水面の上昇の他、異常気象による国土保全・生態系・食料問題等への重大な影響が予測されることから、無視することのできない深刻な問題です。建設分野においては、特に建物運用段階の CO2 排出量削減については、例えば国立環境研究所等を中心に、大幅な削減を可能とするシナリオが提示されていますが、建物建設時（生産段階）に排出される CO2 については、運用段階と同様の定量的な検討や具体的な CO2 削減のシナリオの提示はなされていないのが実情です。本研究室の今年度の研究テーマとしては、建築生産段階における CO2 排出削減を図るために、以下の研究を進めていきます。

- ①環境性能、修復性能に着目した構造設計支援ツールの提案
ー特にタイムインターフェースデザインの適用を目指してー
- ②地球環境時代における木材活用促進
ー柱・梁S造、床・壁木造の非住宅中大規模建物の腐朽促進
- ③福岡大学カーボンニュートラル化の検討
ー特にストックマネジメントシステムの構築を目指してー

2012年5月25日